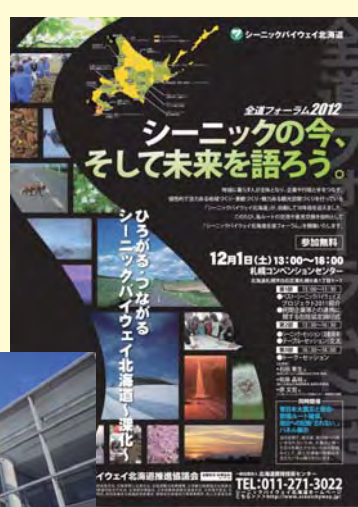




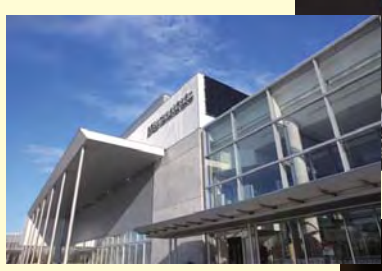
シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

「シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム」は、地域に暮らす人々が主体となり、企業や行政と手を繋ぎ、個性的で活力ある地域づくり・景観づくり・魅力ある観光空間づくりを行っているシーニックバイウェイ北海道の活動団体と、多くの方々が会うことにより、北海道がさらに活性化することを期待し開催しています。

本年度は、2012年12月1日(土)札幌コンベンションセンターにおいて開催し、全道各ルートの活動団体や関係機関、企業、一般市民の方々など約250名が参加しました。



日時 2012年12月1日(土) 13:00~18:00
会場 札幌コンベンションセンター
 (札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)
主催 シーニックバイウェイ北海道推進協議会



プログラム

テーマ:ひろがる・つながる シーニックバイウェイ北海道 ~深化~

- 13:00~ 第1部 開会/ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2011の紹介
- 13:20~ 第2部 シーニック・セッション(活動紹介)/テーブル・セッション(交流)
- 16:00~ 民間企業等との連携に関する包括協定調印式
- 16:40~ 第3部 トーク・セッション
 - ・石田東生氏(筑波大学システム情報系社会工学域 教授)
 - ・和泉晶裕氏(国土交通省北海道開発局 道路計画課長)
 - ・原 文宏氏((一社)シーニックバイウェイ支援センター 業務執行理事)
 - ・橋本 幸氏(国土交通省北海道開発局 道路計画課 道路企画官/コーディネーター)



■ 第1部 開会/ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2011の紹介



最優秀賞
 十勝シーニックバイウェイ
 南十勝夢街道
 みつら よしつぐ
 代表 三浦 祥嗣 氏

今年度から、代表を引き継ぎました。地道にやっていることを皆様に認めてもらい、本当にありがとうございます。
 学校シーニックの授業を受けた子供たちが大きくなった時、シーニックバイウェイのことが頭の中に刻まれていて、我々の後を継いでやってくれるものと期待をしています。
 南十勝には景観のいい場所が道路のすぐそばにあります。皆様方にも子供達もおすすめの美しい景観を見ていただき、ちょっと寄り道をしていただければ嬉しいです。



優秀賞
 萌える天北
 オロロンルート
 にし だいし
 代表 西 大志 氏

私たちのルートでは、暮らしの中にある情報を一元的に集めて、訪れる人たちにその情報を発信したり、受け取ったりしながら、萌える天北オロロンルートらしい情報発信のあり方とは何なのか進めて来ました。
 特にオロロンマップは、手書きの心温まる、地域の風土がよく出ているものを作りました。このマップには、色々な人の思いや活動が詰まっているので、今後ともこの活動を無にすることないように、これからも引き続き頑張っていきたいと思っています。



講評
 ルート審査委員
 筑波大学
 いしだ はるお
 教授 石田 東生 氏

今回の最優秀賞は南十勝夢街道の学校シーニックバイウェイでしたが、これは今、シーニック全体が抱える課題、次世代への引き継ぎや、どう輪を広げていくか、その一つの方法を提示したことが評価されました。
 同じように、萌える天北オロロンルートの情報発信も輪を広げる、どう伝えていくか、手作り感に溢れた取り組みが評価されたと思います。
 皆さんの苦労や喜びが溢れている良い表彰制度だと思っています。来年も素晴らしい、楽しい、良い試みを応募していただければと思います。



シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

■ 第2部 シーニック・セッション(活動紹介) テーマ:連携による地域力の強化

12ルート of 皆さまより、連携による地域力の強化をテーマに活動のPRを行っていただきました。

● 支笏洞爺ニセコルート



「3エリア内で『ごみを宝に』する」 広域連携

みまつ やすし
三松 靖志氏
(ルート事務局長)



シーニックナイトに次ぐルート連携事業『タカラモノプロジェクト』は、環境保全の観点から“ごみを宝にできないか”というアイデアからスタート。

- 今回はニセコの野草、支笏湖のホッチャレヒメマス、壮瞥りんご園のチップで薫製を作りピザに仕上げた。
- ルート内には、5号、230号、276号、453号の国道があり、各エリアから持ち寄った素材を活用して3つのエリアの中心で交流することが重要だった。
- 仲間がどんどん楽しくなる。人と人がつながることによりツアーに深みが増し、参加者の高い満足度にもつながった。
- 今年はこのアイデアを地元のレストラン等で提供することを調整中。『タカラモノプロジェクト』の夢は今も継続している。

● 東オホーツクシーニックバイウェイ



「域内の農商工業者」との 異業種連携

たかや ひろし
高谷 弘志氏
(ルート代表)



シーニックマルシェは、今年は開始年の1.3倍の域内の業者が参加。継続実施により、参加業者の方のシーニックに対する理解が非常に深まり、特産品PRの他、一定の売り上げと利益を確保することに繋がった事が大きな収穫。

- 今後の課題は特に域外来場者の域内滞留時間増加と購買意欲向上。その対応として今年は電動アシスト付きのレンタサイクルの無料貸し出しとアンケート調査を実施。モデルコースマップも作成、案内した。
- アンケートの結果、満足が40%、どちらでもないが60%。不満は1人もいなかった。
- 今後は、域内の食のポイント等も更にこのマップの中に落とし込み、サイクル&食で楽しんでもらうための取り組みを行っていきたい。

● 宗谷シーニックバイウェイ



「地域資源を発掘し魅力向上」を 目指す3つの連携

すぎかわ つよし
杉川 毅氏(ルート事務局長)
かわむら たけひろ
川村 長氏(礼文島観光協会)



エリア内にある地域資源を発掘し磨き上げ、宗谷ならではの、のおもてなし観光メニューをつくりだそうというもの。

- 1つ目は『着地型観光』。宗谷シーニックバイウェイとANA総合研究所、ルート内の各観光協会と連携し地域の観光メニューづくりの発掘を行うもの。
- 2つ目は『風水』。女性に非常に人気があるもので、「気の流れ」で構成されるトリアングルゾーンである礼文、利尻、稚内の中でパークスポットを発掘して紹介。4市町で連携。
- 3つ目は『環境』。稚内には風力発電と太陽光パネル発電があり、自然エネルギーを使ったEV車で観光を推進する取り組み。EV車オーナーさんとも連携。
- 礼文では官民連携の「礼文島パワポイント」外、また映画「北のかりたち」のロケ支援での繋がりを活かし、観光協会と商工会・商工会議所と連携し、映画をテーマに地域を盛り上げていこうという取り組みが進行中である。

● 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ



地域に暮らす人々と旅の支援「福祉」 との連携

なかじま ゆかり
中島 由加里氏
(ルート事務局)



連携テーマは「共生」。地域に暮らす高齢者、お父さん、お母さん、子供、障がい者、そして地域を訪れる観光客、自然や動物、地域にあるもの全てと共に生き、それぞれが調和した地域づくりを目指す。

- そらの森プロジェクト
弟子屈飛行場の滑走路跡を活用した森づくりプロジェクト。今年度は福祉事業所と連携し43名の障がい者の方や一般の方と植樹を行った。森づくりを通じ、地域住民が交流しながら地域環境づくりを実践。
- バリアフリーツーリズム
障がい者や高齢者が、介助や移動のサポートを受けながら旅行を楽しめる仕組みを地元介護福祉施設と連携して構築中。今年度もモニターツアーを実施。現在は事業化を目指して検討を深めている。



シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

■ 第2部 シーニック・セッション(活動紹介)

● 函館・大沼・噴火湾ルート



「縄文文化と介助・介護」 青函広域連携

つぼい むつみ
坪井 睦美氏
(ルート幹事)



道南から道央、北東北の縄文文化には共通性があり、津軽海峡を挟んだ交流が数多く行われていたことがこれまでの調査により分かっている。

- 縄文文化をテーマとしたユニバーサルな学びツアーリズムと青函交流の促進を目的とした活動を報告。
- 日本風景街道「奥州街道と縄文のみち」をはじめとした縄文関係団体や交通事業者等に対して実施したヒアリング調査では、縄文に対する取り組みや縄文施設と公共交通を組み合わせた企画乗車券の導入等について調査した。
- 函館バリアフリーボランティアプロジェクトと函館市縄文文化交流センタースタッフにより行った研修ツアーでは、縄文文化と介助・介護に関する知識を相互に共有し、ユニバーサルな縄文観光の実現に向けた活動を行った。

● 萌える天北オロロンルート



「地域を繋げて情報受発信」 ルート内連携

さとう たいき
佐藤 太紀氏
(ルート副代表)



先ほど優秀賞をいただいた地域情報受発信プロジェクトについて紹介。

- 留萌管内が北海道のどこにあるのかわからないと言った声から、管内の市町村を繋いで行こう、というきっかけよりスタート。
- しかし、地元の人が周りの街のことを知らない。知らないのに繋げようがないということで、それぞれの街の情報をつなげ、自分たちの力で発信していくのが、このプロジェクトの趣旨である。
- フリーペーパー「るもいfan」、ガイドブック、手書きオロロンマップ、webサイト、地域コミュニティ放送局「FMもえる」など、様々な形で情報発信を継続している。
- オロロンマップは、マップの1枚1枚が繋がっているのが特徴、様々な人から高い評価をいただいている。

● 大雪・富良野ルート



「大雪山ぐるっとシーニック観光」 大雪山麓 広域連携

かとう ゆういち
加藤 祐一氏
(サポートセンター代表)



今年から実施している「大雪山ぐるっと観光推進事業」は、大雪山連峰の山麓地域が連携し、観光の推進を図る取り組みである。

- 主要な幹線道路は、総延長約350キロ、関係する自治体は14市町村にもなる壮大な連携である。
- 今年度は、当ルートと十勝平野・山麓ルート、上川町のコアメンバーが中心となり、今後の具体的連携に向けた検討会を行っている。
- まだまだはじまったばかりなので、今後、具体的な取り組みを発表できるように、活動を推進していきたいと考えている。

● 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート



「美しい北海道景観を育てる」 植樹を通じた 広域連携

みつい ふくなり
三井 福成氏
(ルート代表)



「100年の木プロジェクト」は、大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間、南十勝夢街道の4ルートと北海道ガーデン街道が連携し、上川から十勝までの約220キロ区間に景観改善や誘導案内等を目的とした「おもてなしのサインツリー」を植樹するプロジェクトである。

- 今後、2年間で300本の「ヤマナラシ「エレクタ」」を植樹する予定。
- 今年度は各ルート1箇所、全4箇所で開催し、さらに北海道コカ・コーラボトリングとの連携もスタートすることができた。
- プロジェクト名のとおり、100年後を見据えながら、北海道の景観、観光をよりよりのものとしていくため、一致団結して取り組みを推進したい。



シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

■ 第2部 シーニック・セッション(活動紹介)

● 十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間



**「カフェ&スイーツで地域経済を活性化」
広域連携**

のむら ともき
野村 朋輝氏
(ルート事務局)



当ルートは、主に観光施設の事業所が構成団体となり、経済活動を理念として様々な事業を展開している。

- その中で、北海道カフェ・スイーツ街道事業を2013年春にスタートさせる予定である。
- この事業は、見る・食べる・泊まる の連携で、観光による地域経済の活性化を目的としている。
- 事業のきっかけはガーデン街道をめぐるお客様から、カフェやスイーツ店の情報が欲しいという多数の声から。今後、地域のお店と連携していきたい。
- 本事業は、十勝シーニックバイウェイ関係団体と北海道ガーデン街道、その他関係団体と一緒に複数回に渡る会議を行い、来年度の実施を目指している。
- 十勝のスイーツは特に美味しいものが多い。皆さんに知っていただくためにWebの作成を予定している。

● 十勝シーニックバイウェイ 南十勝夢街道



**「こどもたちの提案による地域づくり」
学校連携**

やまさき かずお
山崎 和夫氏
(ルート事務局)



シーニックバイウェイと学校の連携“学校シーニック”。比較的小さな地域の小規模な学校には、私たちルート団体にも、学校運営者にも、児童にも、家庭にもよい展開が生まれる事業。

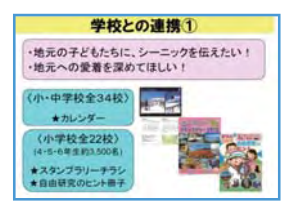
- 最も重要なのは、シーニックバイウェイの想いを伝えること。次に子供が地域のおすすめ情報を話し合い、地域資源としてマップ化すること。子供たちは自分の住む地域への自慢や誇りを持つことができ、大人たちは子供が教えてくれる新たな地域資源に気づかされる。
- 今年は、南十勝のルートマップ中に児童のおすすめを地図に盛り込んだお宝マップを制作中。
- 子供の発想は豊か。もっともっと聞き出したい。今後も毎年学校に出向いて、子供たちからの提案に耳を傾け、この事業を継続、推進していきたい。

● 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート



**学校連携／「住んでよし、訪れてよし」
地域連携**

ふなき りか
船木 利香氏
(ルート事務局長)



小中学生にシーニックの活動を知ってもらうことは将来的にも有効なため、ルートの見どころ等を掲載したカレンダーやスランブラリーのチラシ、自由研究のヒントという冊子を3千部程配布した。また南区内にある二つの大学と連携をして、デザイン、ロゴ、デジタルコンテンツの作成を進めている。

- 全道、全国からの集客が重要と考え、スランブラリーのチラシ3千枚をJTBの首都圏店舗、フェリー会社、レンタカー会社、市内6つのホテル等で配布。
- 今後は、地元の商店街、商工会などの地域連携を検討。地域を巻き込んで、住んで・訪れてよしのまちづくりを目指していきたい。
- 当ルートには、交通量のある国道230号があるので、ルートの活性化につなげたい。

● どうなん・追分シーニックバイウェイルート



**産業・歴史・文化・自然
「体験観光」
による連携**

いとう みつお
伊藤 光雄氏
(ルート事務局)



当ルートは9町で連携を図っているが、今回は木古内町の体験観光についての活動を紹介します。

- 体験型観光は学校の修学旅行を中心に学校教育旅行で自分たちの土地とは違った自然・歴史・文化、そして人に触れあうことで学ぶということを勧めている。
- 今ではリピーターも多く、近隣町でも同様に行われており、連携や助け合いをしながら行っている。
- 安全・安心のためマニュアルを作り、PRに役立てている。道南地域の魅力を若い世代にも知ってもらい、新幹線開通とともに活性化させていきたい。